令和6年第10回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和6年7月19日（金）
- 2 場 所 宝塚市立中央公民館 203,204学習室
- 3 開会時間 午後1時35分
- 4 閉会時間 午後3時25分
- 5 出席した委員の氏名
赤井 稔教育長、木野 達夫委員、松浦 一枝委員、石井 克馬委員及び春日井 敏之委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部長	高田 輝夫	教育企画課長	岡本 進
学校教育部長	藤井 明人	学校教育課長	石田 勝久
社会教育部長	番庄 伸雄	教育研究課長	辻 晃英
管理部次長	上治 秀臣	教育企画課係長	板垣 慎一郎
管理部次長	池本 和義	学校教育課係長	小椋 文也
学校教育部次長	前田 政子	学校教育課係長	大善 雄
学校教育部次長	西口 信幸	教育研究課係長	和田 夏子
学校教育部次長	山下 昌裕		
- 8 会議の書記
教育企画課事務職員 中瀬 陽子
- 9 議題
議案第17号 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書の採択について
報告事項 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書採択に係る調査研究についての答申の受領について
報告事項 令和6年(2024年)度5月及び6月における宝塚市立学校の「いじめ事案」について

会議の概要

開会 午後 1時35分

赤井教育長 令和6年第10回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。
傍聴希望の方はいらっしゃいますか。

岡本課長 おられます。

赤井教育長 それではまず、傍聴希望者の方に入ってきていただきます。

【傍聴者入室】

赤井教育長 傍聴される方に、注意事項を申し上げます。
教育委員会の会議を傍聴される方は、宝塚市教育委員会傍聴人規則の規定により、次の行為が禁じられています。

- (1) みだりに傍聴席を離れること。
- (2) 私語、談話又は拍手等を行うこと。
- (3) 議事に批評を加え、又は賛否を表明すること。
- (4) 飲食を行うこと。
- (5) 許可を受けずに撮影、録音等を行うこと。
- (6) その他会議の妨害となるような挙動を行うこと。

以上の規定を守らない場合には、私から注意を促し、改めない場合は退場を命ずることがあります。

退場を命ぜられた傍聴人は、速やかに退場しなければなりません。

また、会議の進行の妨げになりますので、審議途中での会議室への入室、退室はできません。入室及び退室は、係員の指示に従ってください。

よろしくお願いいたします。

赤井教育長 本日の署名委員は木野委員でございます。よろしくお願いいたします。

本日の付議案件は、議決事項1件、議決事項以外の案件2件です。

それでは、進行について事務局からお願いします。

岡本課長 本日の付議案件は、議決事項1件、議決事項以外の案件2件です。

議案第17号 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書の採択について、報告事項令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書採択に係る調査研究についての答申の受領について、報告事項 令和6年（2024年）度5月及び6月における宝塚市立学校の「いじめ事案」について、です。

議案第17号及びこれに関連する答申の報告については、一括での審議をお願いいたします。なお、資料に記載されている宝塚市公立学校教科用図書選定委員会会長名に関しましては、本年8月末まで非公開のため、審議の際は取扱いにご注意ください。

また、教科用図書調査研究報告書は、他の自治体の採択に影響を与える恐れがあるため、8月末まで非公開となります。

報告事項 令和6年（2024年）度5月及び6月における宝塚市立学校の「いじめ事案」については、個人に関する情報が含まれるため、非公開での報告をお願いいたします。

ご審議のほど、よろしくをお願いいたします。

赤井教育長

それでは議案第17号 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書の採択について、報告事項 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書採択に係る調査研究についての答申の受領について、先ほど事務局からありましたように、審議の際は宝塚市公立学校教科用図書選定委員会会長名の取扱いにご注意ください。

それでは、担当課より一括して説明をお願いします。

辻課長

議案第17号 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書の採択について、提案理由及び内容をご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定等に基づき、令和7年度に宝塚市立小学校、中学校及び特別支援学校で使用する教科用図書を採択するものです。採択の基本方針の1から4に記載しておりますように、小学校用教科書につきましては、文部科学省通知に基づき、令和5年度に採択した小学校用科書と同一のものを採択いたします。

中学校教科書につきましては、全ての教科書について、令和5年度に文部科学省の検定に合格したものの中から採択替えを行います。

特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書、いわゆる一般図書につきましては、児童生徒の障害の種類、程度、症状に応じるよう毎年採択替えを行うこととなっておりますので、今年度も新規提案本の採択を行います。

これらの基本方針に沿って、中学校用教科書につきましては、別紙5及び資料1を参考にいただき、ご協議の上、採択しようとするものです。

小学校用教科書につきましては、別紙4に掲載しているものを採択しようとするものです。

最後に、一般図書につきましては、調査研究報告書に基づき、児童生徒一人ひとりの障害の種類や程度、症状に応じた一般図書を別紙6、令和7年度使用学校教育法第9条第1項の規定による教科用図書調査研究報告書のとおり採択しようとするものです。

調査研究にあたりましては、令和6年5月17日の教育委員会で決定をいただきました採択の基本方針及び中学校用教科書の採択方針、並びに学校教育法規則第9条第1項の規定による教科用図書の採択方針に基づき、宝塚市公立学校教科用図書選定委員会において、適正、公正な手続きのもと、専門的かつ綿密な教科書研究を行っていただきました。

7月3日、4日、9日の3日間に渡って開催いたしました選定委員会では、中学校用教科書、10教科及び一般図書の調査員から調査研究に関する報告を受け、その内容について協議を行いました。

中学校用教科書においては、答申及び調査研究報告書に掲載しておりますように、昨年度に文部科学省の検定に合格した教科書発行者から発行されるすべての教科書について、各教科7名ずつの調査委員会で、それぞれ8つの観点について調査研究を進めました。

観点の1つ目は、カリキュラムマネジメントを効果的に進める配慮がなされているか。

2つ目は、学習指導要領の3つの柱に沿った内容になっているか。

3つ目は、これまでの教育実践の蓄積に基づく教育、授業改善の活性化に繋がるものであるかどうか。

4つ目は、学習意欲の向上につながる工夫がされているか。

5つ目と6つ目は、各教科の調査委員会で協議して設定した評価独自の観点が満たされているか。

7つ目は、宝塚市教育振興基本計画の6つの重点施策の達成に適した内容であるか。

8つ目は、言語や挿絵等の表現や全体構成、体裁についての配慮がなされているか、です。

8つの観点のそれぞれで、宝塚市の子どもたちが使うにあたって十分満たされていると判断できた項目にはA、満たされていると判断できた項目にはB、満たされていないと判断できた項目にはCと評価をしています。

それぞれの評価に対するコメントも記載しています。詳しくは、資料1教科用図書調査研究報告書をご覧ください。

次に、一般図書についてです。本日の特別支援学級に在籍する児童生徒と養護学校の小中学部及び高等部に在籍する児童生徒を合わせて、合計965名となっています。これは、宝塚市立小中特別支援学校全員のおよそ6%にあたります。

このため、小中学校の特別支援学級では、重度重複障害のある子どもから知的発達には課題のない子どもまで、多様な子どもたちが同じ教室で学ぶ状況となり、指導の困難さが増しています。

この実態を踏まえた上で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた一般図書の選定ができるよう、図書一覧を厳選いたしました。

文部科学省から不認定とされたものや、供給不能になったもの、時代に適していないもの、そういった本は削除し、削除本に代わる内容の新規提案本について調査研究を重ねた経緯が報告されました。

その中で、今年度力を入れた分野は、

1. 一人ひとりの可能性を引き出すために、児童生徒が日常生活との関連、つながりをより意識・体験し、学ぶことができるかどうか。
2. 中学校の過程を終了した後の進路選択の決定を見据え、低学年時より継続的に反復学習に取り組みやすいかどうかという点です。

- 今年度の新規提案本は24冊です。
説明は以上でございます。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
今、一括して説明を受けました。中学校用教科用図書の個別の教科については、後ほど審議いたしますので、最初に全体を通して、何かご質問等ございますか。
- 石井委員 後半の方ですが、削除本と新規提案本ですけれども、冊数にだいぶ差がありますが、不足するようなことはないのでしょうか。
- 辻課長 そこは特に問題はないところです。
- 石井委員 わかりました。
- 赤井教育長 他にご質問等ございませんか。
よろしいですか。
それでは、中学校用教科用図書について1教科ずつ審議を進めたいと思います。
- 木野委員 まず、国語から審議をいたします。委員の皆さん、いかがでしょうか。
答申では、三省堂の評価が高いということになっております。全体的に拝見させていただきましたけれども、特に三省堂の新しい指導要領に關係して、思考、論理的思考のところですね、そこはかなり重視されていると感じました。
特に全学年、1年、2年、3年、最初の冒頭に思考の方法っていう図解がありまして、そういった点も、論理的思考力を重視する姿勢も伺われます。全学年ですけれども、早い段階でグループでディスカッションのテーマを入れてるところなんかも、新しい指導要領に沿っているなと思いました。また他の会社もそうですけど、QRコンテンツも非常に充実しています。答申の通りの評価でよろしいかな、という風な意見です。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
他に何かありますか。
春日井委員。
- 春日井委員 僕もざっと拝見させていただいたんですが、三省堂のところが、例えば

目次を拝見させていただくと、教材とですね、それから、それを受けてグループでのディスカッション、あるいは、個としてそれをさらに深めてレポートであるとか、あるいはスピーチに繋げるとか、そういう教材とその後の主体的な学び、取り組みっていうのが非常にわかりやすく連動されている。それは子どもにとってもわかりやすい構成、表記になってるんじゃないかなっていう風に思ったので、その採択結果、答申を尊重して三省堂が良いという風に考えております。

赤井教育長 ありがとうございます。他にありますか。

松浦委員。

松浦委員 私も三省堂で、皆さんおっしゃったように、グループディスカッションとか、対話的な学びっていうところが非常に手厚かったり、ビブリオバトルとかブックトークといった読書活動を促すようなそういうコンテンツもあって、とてもその主体的・対話的な学びを豊かにする内容が充実しているな、という風に受け取りました。

ただ、私は、教育出版と光村図書が、取り上げられている作品やテーマとか著者が、非常に幅が広くて、文学のそれぞれのジャンルの面白さがすごく味わえるという所が良いと思いました。

赤井教育長 ありがとうございます。他、どうでしょうか。

石井委員 私も三省堂ですけど、一点光村図書のSDGsのところ、目次のところでぱっと関連項目が分かるっていうのはいいなと思いました。これは多分、授業のやり方とかではカバーできるかなとは思いますが。国語とSDGsっていうのが関連させるべきなのかどうかっていうのはわからないんですけども、そこはちょっと気になるなっていう程度です。

赤井教育長 ありがとうございます。

そうしましたら、今皆さんの意見をお伺いしたところでは、皆さん三省堂の教科書が良いという話がありました。答申の中でも総合的に評価が高いということもございます。

そういった点も含めて、国語につきましては三省堂でよろしいでしょうか。

- 委員 (承認)
- 赤井教育長 それでは、国語につきましては三省堂で決定いたします。
続きまして、書写の審議をいたします。
委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 木野委員 書写の方、答申では教育出版の評価が高いかと思えます。
調査員の意見でもありますけれども、写真を多く取り入れたり、歴史上の人物の文字を写真で紹介したり、授業が単調にならないように工夫がされているようなところが、一歩秀でていかなという印象もありまして、教育出版が良いかな、というのが私の意見です。
- 赤井教育長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
春日井委員、お願いします。
- 春日井委員 教育出版のところですけども、目次拝見しますと、書写のその教科書の中でコラムというのが目を引きました。つまり、こうした書写のような実技を中心とする教科書の中で、ちょっとコラムを入れながら子どもたちの関心を広げていくというか、そういった工夫がなされてるなという、その点も含めて評価が1番高かったというところに賛同したいという風に考えています。
- 赤井教育長 ありがとうございます。他にご意見等ございましたらお願いします。
- 石井委員 私も教育出版で、宝塚市独自の項目の各教科の学習場面、言語活動というところで、教育出版は「B」評価がついてはいたんですけども、使い方によってというところの表記はあったので、必要十分だと僕も思いました。
教育出版が良いかなと思いました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。他によろしければお願いします。
松浦委員、お願いします。
- 松浦委員 私も教育出版社で、非常にこう、動画とかも充実しているので、わかりやすくいいなと思っています。私は光村図書の中で、文字について、綺麗な文字、正しい文字の後に、自分らしい文字というのがありまして、それはすごく面白いなと思って見ました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。

そうしましたら、皆さん、教育出版のところに対する評価が高かったかという風に思います。

では、書写は教育出版でよろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 ありがとうございます。

書写は教育出版に決定いたします。

続きまして、地理的分野の審議を行います。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

木野委員 答申では帝国書院の評価が高いようです。全社とも非常に見やすく、大きな差はないと感じたんですけども、帝国書院の図が見やすいというところが、地理という教科からすると重要だと思いました。かなり見やすいデザインを取られています。帝国書院は、歴史も公民も全てそうですけど、見開きでのデザインが統一されているようなところが非常に見やすいというところがあります。あと、調査員のご意見もありますけれども、統計がかなり詳細で非常に充実している点ですね。すいません、地図の話を中心に話しました。特にデザイン的な点から重視しますと、帝国書院かなと思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

他の委員の皆さん、どうですか。

春日井委員。

春日井委員 私も、帝国書院は比較的地理分野で実績を積んでこられた出版社かという風に理解しているんですが、地図のところ、写真とか、それから資料、データ、グラフの扱いとか、その辺りがとても丁寧で、わかりやすい配置になっている。非常に精緻であり分かりやすいという、そういったところを評価いたしました。

そんなところで、中学生がぱっと見開いた時に、見開きで全体が理解できて、必要な写真や資料、データ等が関連して分かりやすいという風に評価をいたしました。以上です。

赤井教育長 ありがとうございます。

- 石井委員。 石井委員
- 地図は別ですよ。 赤井教育長
- 地図は別です。 石井委員
- 帝国書院のところで、日本文教出版がSDGsを扱っていて、これも授業の中では使えると思うんですけど、SDGsは多分地理の分野にはなってくるとは思うのですが、全部にSDGsが入っていました。そこは授業のやり方だとは思いますが。そこだけ気になったっていう点です。 赤井教育長
- 他、よろしいでしょうか。そうしましたら、SDGsの点で日本文教出版社の部分というようなご意見もいただきましたが、相対的に帝国書院の評価が高いということになるかと思います。
- それでは、地図的分野につきましては帝国書院でよろしいでしょうか。 委員 (承認)
- ありがとうございます。 赤井教育長
- 続きまして歴史的分野の審議をいたします。
- 委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 木野委員。
- 木野委員
- 歴史的分野でも、答申では帝国書院の評価が高くなっております。文字は各社、しっかりできているんですけども、先ほど申し上げたように、帝国書院、見開きでの統一デザインというのが大変読み易いっていうのがあります。
- 調査員さんも指摘されてますけれども、各項目ごとに「確認しよう・説明しよう」というのが整理されていて、他社さんも同様の構成にはなっておるんですけども、「確認しよう・説明しよう」の内容が、難しすぎず、概ね理解できていると確認できるような内容になっておりバランスが取れてると思います。あと、単元終わりの学習を振り返るところで、対話的な学びを促すように皆さんで話し合ひましょう、というのが必ずついておりまして、その辺なんかも対話的な学びということも意識されているなという風に思いました。答申の評価の通り、帝国書院でよろしいかと思いました。

- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他には、どうでしょうか。
- 松浦委員、お願いします。
- 松浦委員 私も、帝国書院はアクティブ歴史っていうところで、歴史に学んで現代を考えると、そういうテーマがいくつかありまして、例えば母性保護論争を考察しようというようなところでは、与謝野晶子と平塚らいてう、それから山川菊栄の3人の主張を読んで、共感できる点、実現するために課題となる点、みたいなものを話し合うみたいなのがあったりとか、非常に主体的・対話的な学びというところに力が入られてるなと思いました。
- あと、日本文教出版さんもチャレンジ歴史というところで、自分で考え、対話を通して学ぶということで、戦時体制の言論統制とその影響を考えようとかですね、そういった色々なテーマについて話し合うっていうようなところが設定されていて、非常にいいなと思いました。
- 総合的には帝国書院さん、私も賛成です。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他にいかがでしょうか。
- 石井委員、お願いします。
- 石井委員 この帝国書院と日本文教出版の、点数上では僅差にはなるんですけども、カリキュラムマネジメントの部分で、日本文教出版社に「B」評価がついてるんですけども、対話を生むようなページを評価しているのですが、この「A」と「B」の評価の差をご説明いただきたい。
- 赤井教育長 担当、お願いします。
- 辻課長 当日の調査報告会の時でも、この部分に特には調査員の方は触れられてはいなかったんで、この日本文教出版の「B」と帝国書院の「A」の比較は、特には述べられてはいなかったです。「A」評価のところを中心に報告されていたかと思います。
- 石井委員 わかりました。
- 赤井教育長 他にございますか。

春日井委員 私自身の中では、日本文教出版の構成であるとか、「考えてみよう・話し合ってみよう」という論点の提示の仕方とか、その内容であるとか、歴史を深めるという、考えるという点で大事なポイントが提示されてるなという風に、私は高く評価をしました。

もちろん、帝国書院も遜色なく、同じような視点でまとめられているということは同感でございます。

ということで、遜色つけがたく、選定委員さん方々の答申を尊重していくということに異論はございません。

以上です。

赤井教育長 ありがとうございます。私も個人的には歴史が大変好きなので、社会の歴史のところは、全てそのレイアウトとか、言葉の使い方も含めてよく見させていだいたんですが、帝国書院のは見やすかったというのは私も個人的に同じです。ここに「A」、「B」評価されてる中でも、均衡してるのはこの通りだなというのは感じたところです。ただ、今、各委員さんの中で、帝国書院が全般的に評価が高いというような言葉と、答申されてる中でも、総合的な評価では帝国書院が妥当かな、という風に考えております。

歴史的分野につきましては 帝国書院ということによろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 ありがとうございます。

それでは、歴史的分野は帝国書院といたします。

続きまして、公民的分野の審議をお願いいたします。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

木野委員 公民的分野は帝国書院と日本文教出版が評価が高くて、日本文教出版が1つリード、という状況ですが、帝国書院、先ほどから述べておりますように、デザインが見開きで、すごく読みやすいのは地理と歴史と同様です。「学習を振り返ろう」なども 地理や歴史とも同じで、非常に分かりやすいところではございます。

日本文教出版は、特に私が 興味を持ったのが、漫画やイラストを多く使

用されております。ここは地理や歴史も漫画を多用されてるのかなと思っていたんですが、日本文教出版、地理や歴史はもちろん、やっぱり写真とかがどうしても多くなりますし、漫画とかはあまりありませんでした。歴史も、漫画とか利用するよりは、当時の手巻きなどの写真をたくさん使ったりしていて、特に漫画を使ってないんですけども、公民の分野は漫画を多用しているというのが特徴的です。そこは発想がすごくいいところかなと思います。どうしても公民というと抽象的な概念が多いので、写真で公民を表現するというのは、他社では戦時中に逮捕される人の写真とか、実験の写真を載せたりはしてるんですけども、その辺りの工夫が見られて、非常に分かりやすいという風な点。あとはQRコンテンツもかなり充実しているという点は評価できるかと思います。そういう風に帝国書院もとてもいいんですけども、答申での1番評価が高かった日本文教出版に、同意見で賛成したいと思います。

赤井教育長

ありがとうございます。

他に意見等ありますでしょうか。

石井委員お願いします。

石井委員

公民ということで、中学3年生が基本受験生として学ぶんだろうなと見た時に、日本文教出版の復習できそうな感じがあったので、社会として、その辺も多分意識されてたとは思うんですけども、非常に使いやすいんじゃないかなと思いました。

赤井教育長

春日井委員、お願いします。

春日井委員

公民の中身って現代社会の政治と経済なんですよ。現代社会なので、写真だけ持ってくると、なんだか意味がわかんない。どちらかっていうと帝国書院の方はその写真が多くて、僕も日本文教出版を評価しています。

例えば、政治のところで、憲法のきちんとしたキーワードが目次のところでも強調されてる。例えば日本の平和主義から国民主権というような言葉。そういうあたりを憲法の柱に即して、民主政治とか含めてですね、定着を図っていかうというその姿勢が伝わってくる、というあたり。

それと、写真だけではなくて、資料とかデータを分かりやすくどう編集するかというところの工夫も随分日本文教出版の方はされてるな、と伝わってきました。中学生にとってわかりやすい構成になってるんじゃないかな、という風に評価をいたしました。以上です。

赤井教育長 ありがとうございます。

松浦委員、お願いします。

松浦委員 私も、帝国書院は、コラムがですね、非常に身近な、中学生が興味を持ちやすいコラムのテーマ、「フェイクニュースにご用心」とか、そういったテーマが見られていいなと思ったんですね。

皆さん仰っているように、日本文教出版は、「明日に向かって」というところで社会参画する手掛かりみたいなものが示されているところがあったりしました。また、チャレンジ公民というところで、ここはこう話し合う、そして自分の意見というのを自分で考えていくというような内容になってるんですけど、例えば温暖化対策について、政党「A」「B」

「C」のそれぞれの主張と識者の意見っていうのを元に支持する政党を表明しましょう、みたいなところがあったりですね、非常に生徒たちが分かりやすく学べる内容に、そして話し合ってたまた自分の考えを深めていくというステップがあるなと思いました。

赤井教育長 ありがとうございます。

それでは、公民的分野は大変答申の中でも僅差な状況ではありますが、今皆さんの意見の中では、日本文教出版の評価が高かったという風に思います。

それでは、公民的分野は日本文教出版でよろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 ありがとうございます。

それでは、公民的分野は日本文教出版といたします。

続きまして、地図の審議に移ります。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

木野委員。お願いします。

- 木野委員 先ほど地理の時に先走って話したことですが、地図は両社とも見やすさという点では大きな変わりはないかと思えます。
- 統計が帝国書院の方、答申ではその評価がかなり高くなっておりませんが、帝国書院の統計がかなり詳細であるということ、それ以外にも、QRコンテンツの充実という点と、先ほど採用された地理的分野で帝国書院が採用されていること、その関係で地理の教科書とのリンクもできるので、その点から行くと総合的に帝国書院がいいかなと思います。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他にどうでしょうか。
- 石井委員お願いします。
- 石井委員 ぱっと見て明らかに差のある2冊ですね。資料集として帝国書院はすごく情報が載ってるので、子どもたちも抵抗感が少なそう。カリキュラムマネジメントの部分でも差がないので、帝国書院で良いと私は思っております。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他、いかがでしょうか。
- 春日井委員。
- 春日井委員 僕も帝国書院で結構かと思えます。今ご指摘のように、資料が丁寧に整理されているっていう、そこが大きな違いかなという風に思います。地図だけではなく、関連するデータがまたよくまとめられてる。それから、SDGsは色んなところで出てくるんですけども、カリキュラムマネジメントというのは、カリキュラム、各教科の枠を超えて共通で学んでいくみたいなことも含めて、カリキュラムマネジメントという風に捉えているので、そういう点ではいろんなところで出てくるというのは当然のことです。地図上の中でも、そういう点が明記されてるということも大事かなという、いろんな教科で何回も出てくるので、その切り口は違うけども、そこを深めていくっていう、そういう趣旨で理解しています。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他、どうでしょうか。

- よろしいでしょうか。
- それでは、地図については帝国書院でよろしいでしょうか。
- 委員 (承認)
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- それでは、地図は帝国書院といたします。
- 続きまして、数学の審議を行います。
- 委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 木野委員。
- 木野委員 答申によっては、僅差ではありますが啓林館の方が高いようですね。どの社も大変読みやすく、なかなか決定的な違いというのはないのかもしれませんが、調査員さんが指摘されてるように、振り返りか、数学広場とか、解説動画など、そういういろんな丁寧なコンテンツが用意されているということと、個人的には数学ライブラリーというものが、コラム的なものがあったかと思うんですけども、興味を惹かれると言いますか、学ぶ意欲に繋がるというような、そういう工夫なんかも見られて良かったかなと思ひまして、答申通りの啓林館を私も評価したいと思います。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他にいかがでしょうか。
- 松浦委員、お願いします。
- 松浦委員 私も啓林館は、数学の学びを活かそうってということで、実生活の中での応用みたいなものが出てくる。非常に数学というのが身近な生活の中にある形であるということが学べていいかなと思いました。
- また東京書籍も、非常にデジタルコンテンツとかも充実していて、調査員の先生方の評価も高いんですけど、全体的にアニメっぽいイラストがずっと出てくるんですけど、ものすごく男女が書き分けられてるのが、ちょっと私は気になりました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他、いかがでしょうか。
- 春日井委員。

春日井委員 いろんなところでQRコードが出てくるんですね。最近の教科書の1つの特徴ではあるかなという。大事なまとめのところで、そのQRコードがうまく使われてるかなという印象を持って拝見させていただきました。

啓林館のところが1番評価も高く、そのところの特徴として少し感じました。

赤井教育長 ありがとうございます。

他にないですか。

石井委員、お願いします。

石井委員 啓林館の対話の部分は結構気になったので、いい意味で是非活用いただけたらなと思って、啓林館でいいと思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

それでは、数学については啓林館でよろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 それでは、数学は啓林館といたします。

続きまして、理科の審議を行います。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

木野委員、よろしくお願いします。

木野委員 答申では啓林館がかなり高い評価となっております。拝見させていただいて、非常に興味を惹かれる内容ですね。例えば、1年生だと馬の走り方とライオンの走り方の違いが動画で見れたりですね。興味深い内容などがかなりありました。あと、深めるラボ、ラボシリーズっていう、「深めるラボ」「部活ラボ」「お仕事ラボ」とか、そういうのがあって関心を持ちやすい工夫などがされていたかなと思います。

あと全体的に、理科なので、全社そうなんですけども、写真が多くてかなり綺麗であるということも評価したいなと思います。啓林館が良いなと思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

石井委員、お願いします。

石井委員 私も啓林館で、特に継続観察か、こう授業で学んで終わりではなく、引き続きというような、ちょっと仕掛け的なところがあったので、これも先ほどと同じなんですけど、是非、現場で活用いただきたいなと思った様子だったので、またご参考いただければと思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

他いかがでしょうか。

松浦委員、お願いします。

松浦委員 啓林館の探求的学習では、探求シートっていう課題を立てて、そこから「仮説」、そして「計画」、「結果」というような、生徒が学んでいく道筋みたいなものが物凄くわかりやすく提示されていて、それに沿って自分の考えをまとめていける、そういうところが非常にいいなと思いました。

東京書籍の方も、学びを社会や生活に広げようっていうところで、社会につながる科学とか、街中科学とかいったところはとても興味深く思いました。

赤井教育長 ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

春日井委員、お願いします。

春日井委員 啓林館で結構かと思います。

日常生活の中からどう探求をしていくのか、それを理科の視点でどう探求していくかというあたりの視点がとても大事だし、そこが感じられるかな、という風に思いました。

実験1つとっても、実験の手順など、写真とか分かりやすい図を使い比較的孩子たちにとって親しみやすい工夫がなされてるかな、と思いました。以上です。

赤井教育長 ありがとうございます。

それでは、理科は啓林館でよろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 それでは、理科は啓林館といたします。

続きまして、音楽一般の審議を行います。

- 委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 木野委員。 答申では教育藝術社の評価が高いですけれども、圧倒的にQRコンテンツが充実しています。教科書だけでしたら大きな違いはないんですけども、おそらく全ての曲に演奏や楽譜がQRコンテンツとして付いておりますし、演奏のところ、パート別演奏とか、声のないピアノだけの演奏とかもあり、その辺りでも圧倒的な違いがありましたので、文句なしで教育藝術社さんだと思います。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
他に皆さんどうですか。
松浦委員、お願いします。
- 松浦委員 私も教育藝術社がいいなと思います。歌ったり演奏したりするという表現する音楽というのと、感じたり味わうという鑑賞する音楽ということの、今まではどちらかという表現する方の音楽が中心だったと思うんですけど、鑑賞を味わうというような音楽の方の、そこのバランスがとても良かったなと思いました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
他に、いかがでしょうか。
春日井委員。
- 春日井委員 僕も先ほど指摘あったように、このQRコードの活用、そこがより優れてるのは教育藝術社の方だっていう風に拝見させていただきました。
これで結構かと思います。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
そうしましたら、音楽一般につきましては教育藝術社でよろしいでしょうか。
- 委員 (承認)
- 赤井教育長 音楽一般については、教育芸術者といたします。
続きまして、器楽といたします。
委員の皆さん、いかがでしょうか。

- 木野委員、お願いします。
- 木野委員 こちらの答申通り、教育藝術社が優れているかと思います。
- 理由は同じで、QRコンテンツの充実が相当違います。教育藝術社は、いわゆるQRコンテンツで動画が見れるんですけども、演奏は当然のことなんですけれども、姿勢なんかも動画で丁寧に教えてくれるという、非常に配慮が行き届いていました。やはりQRコンテンツの差で、教育藝術社さんだと思います。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他、いかがでしょうか。
- そうしましたら、答申の評価も、教育藝術社の方は高いという事もございます。ご意見の中でも総合的に教育藝術社のものが良い、というようなご意見をいただきました。器楽につきましては、教育藝術社でよろしいでしょうか。
- 委員 (承認)
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- それでは器楽は、教育藝術社といたします。
- 続きまして、美術の審議をいたします。
- 委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 木野委員、お願いします。
- 木野委員 答申で圧倒的に評価されてる光村図書が、私も圧倒的に評価をしております。なんと言っても迫力が凄いです。美術芸術の分野は主体的で深い学び、というよりも感動が大事だと思うんです。その意味では教科書を開いた瞬間に、訴えかけてくるパワーが圧倒的に違いました。具体的には光村図書では1年生の教科書で風神雷神の見開きがあって、凄く迫力があります。これは他社では開隆堂も、日本文教出版も全然違います。あと、2、3年生の教科書では、光村図書は鳥獣戯画の原寸大がありまして、それが確か紙が和紙のようですね。北斎もそうなんですけども、原寸大で和紙を使ってます。すごく素材の感じが伝わってきますし、ゲルニカなんかもA4を4枚分使ってる見開きで、もう凄い迫力です。岡本太郎の壁画も圧倒

的な迫力です。他社でも同様の内容はあるんですが、例えば日本文教出版の2、3年生の上では原寸大の北斎はあるんですけども、それはツルツルの紙で、和紙は使っていない。そこまでの工夫はないということと、岡本太郎の壁画も同じ写真なんですけども、迫力や映り方が全然違う。芸術に対して興味を持つ、感動するという意味では、圧倒的に光村図書を推したいと思います。

赤井教育長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

石井委員、お願いします。

石井委員

木野委員を補足してなんですけど、この資料も凄いなと思って拝見しました。使いどころを凄く考えてらっしゃるなと思いました。子どもたちが持ち運びできるように、というお考えだと思うんですけども。そうですね、もう光村図書が良いかなと思います。

赤井教育長

ありがとうございます。

松浦委員、お願いします。

松浦委員

その作品の力とか、そういったものが1番伝えられているというのは、皆さんおっしゃった通り光村図書で、そこに私も補足したいのですが、教科書の最初と扉と、それから最後のページの所で、谷川俊太郎さんの言葉が引用されていて、美しいということについて、「何を美しいと思ってもいい」ということが伝えられているのがとっても素晴らしいなと思いました。

赤井教育長

ありがとうございます。

春日井委員。

春日井委員

僕も光村図書賛成ですけども、音楽もそうですけど、美術も作品を制作するというのと、楽しんで鑑賞するっていうか、その芸術性に触れるという、その2つの意味ってとても大事だと思うんですね。

そういう点では、先ほどからあるように、A4で見開きのさらに見開きで4枚分の迫力で迫ってくる、というあたりの工夫は凄いなと思います。子どもたちが圧倒される。実際本物を見てみたいと思う。そういった、そ

- の鑑賞することの醍醐味みたいなことを味わわせてくれる教科書になって
るんじゃないかなっていう風に思いました。以上です。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- それでは、美術は光村図書でよろしいでしょうか。
- 委員 (承認)
- 赤井教育長 それでは、美術は光村図書といたします。
- 続きまして、保健体育の審議をいたします。
- 皆さん、委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 松浦委員、お願いします。
- 松浦委員 自分自身のセクシャリティーっていうのを自覚するという平均年齢が
14歳あたりだったと思います。まさに中学生なんですね。この時期に、
例えば性的マイノリティの生徒は、おそらく悩みを抱えて、情報とかそう
いった知識が欲しいと思う年齢だと思います。
- それについて東京書籍は、一応、性の多様性ということで説明がありま
した。大修館書店は、ここが1番丁寧に、それについて取り扱われていて、
性についての固定的な考え方に気付こうとか、その性自認の分類とか、そ
してその性的マイノリティの人の不安、悩みといったところまで教科書
中で書かれてました。
- 学研が答申では1番評価が高かったと思うんですけど、学研は、その
性の多様性のところで言うと、凄くさらっと言葉の意味みたいなところで
終わっていたのが、ちょっと残念だなという風に私は印象を受けてます。
- 赤井教育長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
- 石井委員。
- 石井委員 私は学研が1番ではあるんですけども、東京書籍の、どこなんだろう、
学習意欲のところにあるのかな。ちょっと対話を生むような仕掛けは東京
書籍の方があると感じました。
- そこは授業の進め方具合では可能な範囲だと思うので、ちょっと意見と
して述べさせていただきます。
- 赤井教育長 他にいかがですか。

木野委員 しっかり目を通してない部分もあるんですけども、答申では学研が高い評価となっているということと、松浦委員のご指摘のあった性の多様性のところ、大変重要なところかと思うんですけども、この分野についてはまだなかなかこう、なんと言いますか、大変難しい論点でもあって、国民全体で統一的な、意思形成、一般的には性の多様性を肯定すべきだという点では国民的な見解は一致してると思うんですけども、なかなか微妙なところでは、固まっていないようなところもあるかと思しますので、その記載が少ないことをもって、それだけで不採用というのは厳しいご意見ではないかな、という風には思いました。

赤井教育長 ありがとうございます。
 他、いかがでしょうか。
 春日井委員、お願いします。

春日井委員 自己形成っていうところの表記に着目しながら見てたんですけども、もちろん薬物問題や性の問題や体の仕組みや理解ってところは、どこの教科書も大事にされておられて、その前提となる思春期、青年期の自己理解をどう図っていくかという、そこは結構大事なポイントじゃないかなっていう風に思っています。

 その点で言うと、大修館書店の自己形成の記述はしっかり書けているんじゃないかな、という風に拝見をさせていただいたところです。全体的には、学研の評価が選定委員のところでは高く、その結果を尊重したいとは思っています。

赤井教育長 そうしましたら、少し意見が、論点もそれぞれであろうかと思えます。まず、性の多様性という論点になりますと、東京書籍、大修館書店が丁寧であったり、しっかりと書かれてるということかと思えます。それから、自己形成っていうところで行きますと、その点でいけば、大修館書店というような話もあります。全体の総合的な判断ということで行きますと、答申にありますように、学研が高評価というようになるとになります。

 それぞれの論点について評価をするのがいいのか、全体的に見るのがいいのか、というところが、その丁寧さとか、さらっと触れられてるって

うようなこと、特にそこに力を入れられてるっていう点を取るのか、ということ、そのあたりの部分で評価が分かれるかな、という風に感じました。

この点について、もう少しどちらが良いというところがございましたら、ご意見いただければなという風に思います。いかがでしょうか。

春日井委員 それぞれの書籍の評価すべきポイントってのは、もちろん丁寧に見てくと個々あるかと思いますが、総合評価でのトータルな評価を尊重するということが良いのではないかな、という風に思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

今、総合評価で評価するのが良いのではないか、というようなこともございました。答申の中では学研の総合評価が高いということもございます。保健体育につきましては、学研でよろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 では、保健体育は学研といたします。

続きまして、技術分野の審議をいたします。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

石井委員。

石井委員 東京書籍がQRコンテンツが多いなと思いました。ただ、さりげないというか、ぼんと置いてるだけなんで、カリキュラムの方に現場の先生方も入られてのカリキュラムの配慮の部分で、東京書籍にAがついてたんで、その多いQRを活用していただけるんだろうということで、東京書籍でいいと思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

他に何かございますか。いかがでしょうか。

春日井委員。

春日井委員 東京書籍の中身が割と資料とかデータ、図表を含めて精緻なんです。その辺りが丁寧に作られてるということを感じました。割と他の書籍は分かりやすいんですけども、その点で丁寧に写真も含めて必要なデータを整理して、見開きの2ページに納めていただいているという風に思います。

あと、QRコードが各ページに配置されてるっていうのも、技術らしいな
っていう風にして評価できるんじゃないかなと思いました。以上です。

赤井教育長

ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

木野委員、お願いします。

木野委員

調査員さんのコメントなどを拝見してますと、やはり全体的にバランス
が取れている、優秀な点が多いという風に拝見いたしましたし、個人でも
高い評価ですので、東京書籍で結構かと思います。

赤井教育長

ありがとうございます。

それでは、技術分野は東京書籍でよろしいでしょうか。

委員

(承認)

赤井教育長

では技術分野は東京書籍といたします。

続きまして、家庭分野の審議をいたします。

皆さん、いかがでしょうか。

松浦委員、お願いします。

松浦委員

冒頭のところで、家族っていうものが、それぞれ紹介されてます。

家族の形っていうのが多様化してるんですけど、東京書籍は、クレヨ
ンしんちゃんとかクッキングパパとか、それに加えて映画の「海街diary」
の異母姉妹とか、「よつばの育ての親」っていうところが取り上げられて
ます。

また教育図書は、「きのう何食べた」っていうゲイカップルの日常が書
かれた漫画が紹介されていたり、あと、離れて暮らしている家族とか、猫
とおじいちゃんっていう、広げた家族っていうのが紹介されてます。本市
がパートナーシップ、ファミリーシップ宣誓制度っていうのを制定されて
いるので、そういう意味では、「きのう何食べた」っていうのとかが入っ
ているっていうのは、とてもいいなと思いました。

開隆堂がさらに児童養護施設の指導員と子ども、里親と子ども、といっ
たところまで家族を広く捉えられていて、とても素晴らしいなと思いま
した。

- 赤井教育長 ありがとうございます。
他、いかがでしょうか。
石井委員。
- 石井委員 開隆堂の載せてる情報量が凄いですね。
これも先ほど言ったんですけど、それで子どもたちが抵抗を感じないであらう評価も他でしてるので、こちらが家庭科においてはいいなと思いました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
他、いかがでしょうか。
春日井委員、お願いします。
- 春日井委員 中身が指導要領上、衣食住プラス家族、家庭、というような大きな柱があるかと思うんですけども、開隆堂のところは家族、家庭生活を1番初めに持ってきておられるんですよね。つまり、その意図は、家族あるいは家庭生活のその多様性のところを強調して大事にしていこうっていう、その意図が感じられて、とてもいいなと思って拝見しました。ということで、答申で高評価の開隆堂がいいのではないかなっていう風に評価をいたしました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。
それでは皆さん、家庭分野については開隆堂出版というようなご意見だったという風に思います。
家庭分野は開隆堂出版でよろしいでしょうか。
- 委員 (承認)
- 赤井教育長 ありがとうございます。
それでは家庭分野は開隆堂出版といたします。
続きまして、外国語の審議をいたします。
委員の皆さん、いかがでしょうか。
松浦委員、お願いします。
- 松浦委員 調査員の方々の評価でも、東京書籍と三省堂は高いんですけど、三省堂

は、サイコロトークとかクイズとか、日本の昔話の紙芝居動画を作ろうといった、楽しくコミュニケーションを取りながら学ぶような仕掛けが工夫されていた。

東京書籍は、デジタルコンテンツが非常に充実しているのと、それから題材が平和とか環境、人権に繋がるもの、身近なものからそういったテーマを、英語を通して学ぶ、というようなところがとてもいいなと思いましたので、総合的には東京書籍で私も賛成です。

赤井教育長 ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

木野委員、お願いします。

木野委員 私も同意見で東京書籍のQRコンテンツの充実などの点からしますと、かなり充実しているかと思います。あと、全体的な見やすさ、読みやすさ、文字のフォントとかも非常に柔らかいと言いますか、そういった面なども総合的に判断して、東京書籍が良いのではないかと思います。

赤井教育長 ありがとうございます。

他にいかがですか。

春日井委員、お願いします。

春日井委員 僕も東京書籍でいいかと思います。動画コンテンツは非常に豊かだということと、深めたいというテーマの設定が明確に打ち出されてる、というあたりがとてもいいのではないかなっていう風に拝見しました。以上です。

赤井教育長 ありがとうございます。

それでは、外国語は東京書籍でよろしいでしょうか。

委員 (承認)

赤井教育長 それでは、外国語は東京書籍といたします。

続きまして、特別の教科「道徳」の審議を行います。

委員の皆様、いかがでしょうか。

松浦委員、お願いします。

松浦委員 調査員の方々の評価で言うと、光村図書と、日本文教出版、学研、あかつき教育図書の評価が高いんですけど、この中で学研は、世界的に活躍

した人とかを結構取り上げられたりしてるんですけど、スポーツ選手だったりとか、何か成果を残された人とかですね、ちょっとこう中学生たちからは遠いかなという印象を持ちました。

日本文教出版は、自分の考え方を見つめようとか、怒りの感情と上手に付き合おうとか、気持ち・考えを上手に伝えようといった感情のコントロールとか、コミュニケーションスキルというようなことを、うまく学べるような内容があっていいなと思いました。

光村図書は、中学生にすごくありがちな、いじめに通じるような「いじりって何かな」とか、部活で凄く強くなりたい人と楽しみたい人がいた時に、どうやって折り合っていくのかみたいなこととかですね、中学生が身近なテーマでよくあるようなことが取り上げられていて、かなりいじめっというのが沢山入ってきていて、光村図書がいいかなと思いました。

赤井教育長

ありがとうございます。

他、いかがですか。

木野委員、お願いします。

木野委員

各社工夫されていて、1つ1つのコンテンツはしっかりしてますし、バランスも取れていると思います。

光村図書が答申では高い評価になっておりますけれども、個人的には、リフレーミングという視点を変えるという、そのところが非常に評価できるなと思っておりまして、一方の見方からはこうだけでも、相手から見たらそれはどう見えるのか、ということをかなり意識的に取り入れられて、そういう風に多面的なものの見方というものをかなり意識されているな、というところは非常に評価できると思いました。答申としても高い評価ですので、光村図書がいいかなと思います。

赤井教育長

ありがとうございます。

他いかがでしょうか。

石井委員、お願いします。

石井委員

私も光村図書がいいなと思いました。日本文教出版の答申にもあるところの「学びを深めよう」という所、道徳なので話し合いとか対話ができる

- 仕掛けのところは、ちょっと参考にしていただけたらなと思いました。
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- 他いかがでしょうか。
- 春日井委員、お願いします。
- 春日井委員 光村図書の方は、割と日常生活の中での課題をほぼ網羅的に、上手に配置されてるなっていう風に思いました。
- 僕の中では、あかつき教育図書の教材の中身、テーマ、その深みがあるなっていう、読みごたえのある教材が採択、取り入れられてるっていう点では、あかつき教育図書の方にちょっと惹かれました。
- ただ、総合的に高い評価を受けてる光村図書で全く問題はないという風には思いません。いじめの問題がどういう風に扱われてるかな、ということ、例えば全ての出版社、ざっと比較して読んだりしました。そういったことも是非また参考にしていただければと思います。
- 赤井教育長 ありがとうございました。
- それでは、特別の教科「道徳」は光村図書でよろしいでしょうか。
- 委員 (承認)
- 赤井教育長 ありがとうございます。
- それでは、特別の教科「道徳」は光村図書といたします。
- 以上で中学用教科用図書の各教科ごとの審議につきましては、これまでの議論をいただいた通りで決定をしたい、という風に思っております。
- 続きまして、小学校用教科用図書につきましては、令和5年度に採択したものと同一のものを採択することといたします。
- 最後になりますが、特別支援学校及び特別支援学級用の教科用図書につきましては、先ほどの説明でもありましたように、従来のもののうち61冊を削除し、24冊を新たに加えた一覧に記載されている259冊の図書を一括して採択することといたします。
- 以上の件について、委員の皆様、よろしいでしょうか。
- 委員 (承認)

赤井教育長

ありがとうございます。

それでは、そのように決定いたします。

それでは、議案第17号 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書
採択について、報告事項 令和7年度使用宝塚市公立学校教科用図書採択に
係る調査研究についての答申の受領については、以上の通りとします。

続きまして、先ほど事務局からありましたように、次の報告事項は非公
開といたしますので、傍聴者の皆様は退出をお願いいたします。

【 傍聴者の退出 】

赤井教育長

教育委員会を再開いたします。

続きまして、報告事項 令和6年（2024年）度5月及び6月におけ
る宝塚市立学校の「いじめ事案」について、担当者より説明をお願いいた
します。

【非公開での報告事項あり】

赤井教育長

本日の予定の案件は以上ですが、他にご報告いただくことはございますか。

岡本課長

ございません。

赤井教育長

それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時25分